

**伝染性海綿状脳症を法第5条で規定する疾病に追加（抜粋）**

（食品衛生法施行規則の一部を改正する省令の施行 平成13年2月15日食発第41号）

食品衛生法施行規則の一部を改正する省令（平成13年厚生労働省令第13号）が改正され、同日から施行することとされた。

**第1 改正の要点**

牛海綿状脳症（BSE）は、伝染性海綿状脳症のひとつで、牛の脳がスポンジ状となる慢性かつ致死性の中樞神経系の疾病であり、1986年に英国で発見されて以来、欧州諸国を中心に発生が報告されている。1996年以降、人に対する新種のクロイツフェルト・ヤコブ病（v C J D）の患者分布との類似性、動物試験結果等から人への伝達の可能性が指摘されている。昨年の後半以降の欧州諸国での牛海綿状脳症の報告の増加等を踏まえ、当該疾病にかかり、又はその疑いがある獣畜の肉、臓器等の販売、輸入を禁止するため追加する。

**第2 運用上の注意**

1. 追加の「伝染性海綿状脳症」は、「牛海綿状脳症」及び羊の類似疾病である「スクレイピー」である。
2. 施行規則の改正により、国産食肉については、伝染性海綿状脳症にかかり、またはその疑いがあることが明らかになった獣畜の肉、臓器等の販売等が禁止される。輸入食肉にあつては、輸出国政府機関が発行した「伝染性海綿状脳症」にかかり又はその疑いがあるものでない旨の証明書が添付されなければ、輸入が禁止される。
3. E U諸国等から輸入される牛肉及び牛臓器並びにこれらを原材料とする食肉製品については、牛海綿状脳症の発生状況を勘案して、E U諸国等の証明書を受け入れない。

**第3 その他**

1. 牛海綿状脳症において特定危険部位とされる頭蓋（脳、眼を含む。）扁桃、脊髓、骨髓、胸腺、脾臓、腸等は全て、食品衛生法に規定する「臓器」に含まれるものであること。
2. 衛生証明書が添付の対象とならない牛肉等を少量含む加工品については、行政指導の対象として輸入自粛を引き続き指導する。

**牛海綿状脳症（BSE）を疑う牛の確認について（抜粋）**

（平成13年9月10日厚生労働省報道資料）

**1 経緯**

- (1) 本日、農林水産省は、千葉県で8月6日に屠殺された乳牛1頭（ホルスタイン種、雌、5歳）について、（独）動物衛生研究所で検査を行なった結果、牛海綿状脳症（B S E）の疑いがある旨、公表した。
- (2) 農林水産省では、確定診断のために、「牛海綿状脳症に関する技術検討会」を開催し、国際リファレンス研究所（英国獣医研究所又はスイスベルン大学）での検査が必要であるか否も含めて検討する。

**2 厚生労働省の対応**

- (1) 今後、当該牛を飼育した農場で飼育された牛及び同一の動物性資料により飼育された牛由来の食肉等（乳については、伝達因子とならないとされているため除外する。）に関する流通調査を行い、診断結果が確定するまでの間、念のためこれら食肉等の販売等の中止を指示する。
- (2) 厚生科学研究特別研究事業「牛海綿状脳症に関する研究（主任研究者：帯広畜産大学品川森一教授）」の研究班会議を開催し、専門家からの意見を得る。

## 牛海綿状脳症（BSE）に関する情報の提供について（抜粋）

（平成13年9月12日農林水産省報道資料）

1. 9月10日、千葉県下の酪農家で飼育されていた乳牛1頭から、牛海綿状脳症（BSE）の感染を示唆する検査結果が得られた。
2. 今回発見された牛は、既に廃棄され、食肉に供されていない。
3. 本件の診断確定のため、この牛の材料及び国内の検査結果を国際リファレンス研究所である英国獣医研究所に送付する。
4. 本病に関しては、一般に食べられていない脳、眼、脊髄、回腸遠位端を含まない生鮮肉及び肉製品並びに乳及び乳製品等は安全であると言われている。

その後、前に述べた牛はBSEであることが判明した。さらにBSEに対する検査体制が整い、10月18日～11月15日までの成績は、72,415件すべて陰性であった。今後検査結果をつけて販売されるが、消費者の買い控えはしばらく続きそうである。

なお、英国でのBSE牛は1992年の3万7千頭を筆頭に、1989年～2001年11月までに18万頭に及んでいる。

以上、狂牛病について、厚生労働省及び農林水産省資料を要約抜粋しました。詳細は両省ホームページなどで確認ください。（三好康之）